

未来の健康を守るための環境行動宣言

気候変動や環境問題は、もはや自然環境の問題にとどまらず、人々の健康や生命に直接影響を与える重大な公衆衛生の課題である。

そして、これは「未来の問題」ではなく、すでに私たちの健康に影響を及ぼしている「現在の問題」である。

例えば、熱中症の増加、感染症の拡大、食糧不安、生物多様性の喪失などは、現実健康被害として現れている。

2025年9月7日に京都で開催された第66回日本社会医学会総会「次世代企画「地球の未来のために私たちは何ができるか？～京都発！若い世代からの発信☺」にて、私たちは、次世代を担う社会医学・社会福祉に関わる若者として、環境と健康のつながりを重視し、個人・社会の両面から持続可能な未来に向けた行動について、真剣に話し合った（添付資料に内容のまとめを示す）。

社会医学・社会福祉を学ぶ私たちは、個人の健康だけでなく、社会全体の健康を守る責任がある。そのために、個人の行動と社会の仕組みの両方を変えていく必要がある。

小さな行動から社会の変革へとつなげていくことを、ここに提言する。

2026年6月9日

第66回日本社会医学会総会 次世代企画に参加した学生一同

添付資料

第 66 回日本社会医学会総会 次世代企画「地球の未来のために私たちは何ができるか？～京都発！若い世代からの発信 ☺」（2025 年 9 月 7 日・キャンパスプラザ京都）にて話し合った内容のまとめ

【現状の認識】

1. 環境変化はすでに健康に影響している
 - ・熱中症の増加（特に高齢者）
 - ・食料供給の不安定化
 - ・水資源の枯渇・汚染
 - ・感染症の増加や生態系の変化
2. 生活・社会システムに問題がある
 - ・化石燃料依存
 - ・食品ロス・大量消費
 - ・ゴミ処理・分別の不十分さ
 - ・エネルギー・交通インフラの課題
3. 個人の意識だけでは限界がある
 - ・マイバッグ等の個人の努力だけでは不十分
 - ・経済的インセンティブが行動を左右
 - ・社会構造の変化が必要

【改善に向けた意見】

1. 個人レベル
 - ・食生活の見直し（地産地消・食品ロス削減・肉消費の見直し）
 - ・節電・節水（エネルギー消費の最適化）
 - ・公共交通機関の利用
 - ・正しい知識の習得と発信
2. 地域・コミュニティレベル
 - ・地域での環境教育の推進
 - ・緑地・植生の保全と拡大
 - ・地域コミュニティへの参加（防災・環境活動）
3. 社会・政策レベル
 - ・化石燃料依存からの脱却（再生可能エネルギー推進）
 - ・食料・水の安定供給を守る政策
 - ・廃棄物管理・リサイクルの強化
 - ・健康影響を考慮した環境政策（Health in All Policies）